

# 医光院の伝承

## 曾我兄弟の墓

## 匠探 叢訪

(29)

匝瑳地区山桑の医光院境内に「曾我兄弟の墓」があります。1193年に曾我五郎・十郎兄弟が父のかたきを討つた事件は、のちに「日本3大仇討ち」の一つとして歌舞伎などで取り上げられ広く知られました。

医光院の墓の由来は、次のように伝承しています。

源義朝の家臣に鬼王（おにおう）と名乗る者があり、山

桑村に来て2人の子を産んだ。その子はのちに曾我兄弟の家臣となり、兄弟の死後、兄弟の「守り本尊」を持ち帰りまつたのが医光院の観音だという。

曾我兄弟の仇討ちに関する物語は「曾我物」として、1700年ごろには江戸で歌舞伎の初春興行として多くの作品が演じられたといえます。その中での登場人物「鬼王新左衛門や団三郎」「大磯の虎」などが山桑の曾我兄弟に関する伝承にも出てくることから、それらをもとに生まれたのでしょ。

今は存在しませんが、1780年ごろにこの地域の言い伝えを書いた記録の中に「生尾（およう）という村名と鬼王とを結びつけて、生尾を鬼王が生まれた所とし、少しはなれた山桑村に曾我兄弟の墓と団三郎の墓石がある」とありました。江戸で歌舞伎や芝居で取り上げられた「曾我物」がこの地域にまで広まっていたこと、すでに墓石があるこ

となど、曾我兄弟の墓のなぞを解くヒントがありそうです。

「曾我兄弟の墓」は全国にあり、その数は十数か所に及ぶとされます。曾我兄弟の死は900年も前のことで、江戸時代中期ごろから「曾我物」が広まったことで、ゆかりの地に墓がまつられたのでしょ。

山桑の墓がさらに知られるきっかけは、明治末の千葉県での「名勝旧蹟保存事業」にあったようです。「千葉県文書館」の刊行物によると、1911年（明治44年）10月に匝瑳郡が県に曾我兄弟の墓の周囲に木の柵を作ることを申請し、約100円の補助を得て大正3年秋に完成しました。同10年刊行の『匝瑳郡誌』にも載せられました。

昭和6年12月には、医光院の観音像を「曾我観音」とし33年ぶりに本開帳し記念塔を建てました。境内に江戸時代の供養塔が見られないので、この遺跡保存事業が大きな成果をもたらし、33年ごとの本尊開帳は昭和38年、平成元年と続き、今後の保存につながるのでしょ。

間八日市場図書館 ☎ 3746



医光院境内にある「曾我兄弟の墓」